



新冠町農業協同組合ピーマン生産部会
会長・竹中浩二さんにインタビュー



広報 ピーマン生産部会の会員数と活動内容を教えてください。
竹中 会員は、農協の共同選果を利用している町内の生産者46名で、「安全で質の良いピーマンを作る」ことを一番の目標にしています。今年、選果場の竣工式の時に、ピーマンの色や形・大きさをできるだけ揃えるために「目ならし」を行い、また、6月29日には、栽培講習として「青空研修会」を実施しました。



青空研修会の様子

広報 新冠町のピーマンの生産はいつ始まりましたか？
竹中 昭和55年に生産者5名により、露地栽培でピーマンの生産が始まりました。平成に入り、ハウス栽培が主流になり、ピーマン栽培を始める人が増えたことで、作付面積や収穫量も徐々に増えていきました。また、ピーマンの販売額も、平成26年には5億円、平成27年には6億円と順調に伸びています。

また、販売強化対策として役員と農協職員で道内外市場に出向き、今年度の取

引見込みについて確認をしたり、札幌市場で初競りに合わせて市場の表敬訪問を行っているほか、若い生産者が自主的に活動できるように「担い手活動」という取り組みも始めました。
広報 日本の農家は跡取りがないという話を聞きますが、新冠はどうですか？
竹中 新冠のピーマン農家は、後継者のUターンや新規就農者の増加などで、若い世代が多くなります。この様な恵まれた状況だからこそ、若い生産者が横の連携を作り、自ら学習できる機会が重要になると考え「担い手活動」を始めることにしました。

広報 新冠のピーマンは「みおぎ」という品種ですが、いつごろからこの品種の栽培が始まりましたか？
竹中 以前は「あきの」という品種でしたが、平成16年から、緑色が濃くて柔らかい「みおぎ」に統一して生産しています。

広報 ピーマン生産を行う中で、何か問題がありますか？



札幌市場での初競り

竹中 新冠のピーマンは、質が良く、生産量も増えていることから市場でも高い評価を得ています。市場関係者に「6月から9月のピーマン生産は、北海道の新冠にまかせておけば大丈夫」という意識が浸透してきており、交渉もスムーズに進められるようになってきています。

広報 道内外の市場を訪問しているとのことでしたが、新冠ピーマンの評判はどうですか？
竹中 他にも、カラーピーマンなどの生産を検討したこともありましたが、通常のピーマンの需要が高いことから、今は「みおぎ」に特化して生産しています。

竹中 農家により違いはありますが、共通の問題は、繁忙期の労働力不足です。9月で、この間は収穫の人手が足りなくなりました。繁忙期だけの雇用は難しく、また、通年でのベトナムなどからの研修生を受け入れも、一定の生産規模が必要となり、なかなか難しい状況です。

竹中 これは長年の問題でありますが、まだ、解決策が見つけられていません。

広報 今後の町内でのピーマン生産について、目標などはありますか？
竹中 これまで要望してきたことは、新しい選果場を建設して欲しいということと、出荷用の箱のデザインを新しくしたいということでしたが、ありがたいことに、この二つの願いが、今年実現しました。

新しい選果場は、最盛期にも十分に対応できるサイズと能力を持った施設となりましたし、段ボールの口ゴもデザイナーに依頼し、シンプルで現代的なデザインになりました。



新しくなったロゴ(上)

このように、生産環境も業績も順調に推移できているのは、農協はじめ、農業改良普及センター、役場が積極的に関わってくれているからだと感じています。毎年の生産だけではなく、ハウスの自動換気機器導入や大雪被害の対応、今回の選果場建設など、いつも支援をいただいています。道内外の生産者と話しをしますが、新冠の生産者は本当に恵まれています。

このような中、自分たちができることは、会員一体となり質の高いピーマン生産することだと思います。今年、天候不順などで現在までの生育状況はあまり良くありませんが、このような中でも知恵を絞って、さらに良いピーマンを作り出せるよう努力していきます。

☆ピーマン農家生産記録より
ハウス整備から
苗づくり、収穫まで



3月上旬
ハウス整備①
融雪剤と肥料まき



3月上旬
苗づくり
ポット移植



3月中旬
ハウス整備②
ビニールかけ作業



4月上旬
ハウス整備③
マルチひき作業



4月中旬
苗植え
一つのハウスに4列



5月上旬
脇芽、花つみ
教科書どおりに作業



5月中旬
糸かけ
一本ずつ丁寧に作業



5月下旬
収穫開始
11月上旬まで続く

一本の苗から約230個の
ピーマンが収穫されます。